

## 経済学と子ども

# 子どもを粗末にしない国にしよう

～社会的共通資本の視点～

Economics and Children

The perspective of social common capital  
for a nation that values children

A Dialog between Dr. Hirofumi Uzawa, economist,  
and Dr. Noboru Kobayashi, Director, CRN

子ども問題はいまや先進国の共通の課題。社会そのものが子どもたちの生命の輝きを蝕んではいないかを検証する必要に迫られています。世界全体が市場原理によって支配される時代に危機感を覚え、「社会的共通資本」という概念によって、新たな経済原則を提唱する経済学者の宇沢弘文さんにお話をうかがいました。

宇沢弘文  
(経済学者)  
×  
小林登  
(CRN所長)

官僚任せにしないで  
公の資金を有効に使う

宇沢 今日はどうしようかと困ってしまったてね。子どものことと言っても、小林さんの前で偉そうに話すわけにはいかないし。  
小林 いやいや宇沢さんには教わりたいことがたくさんありますよ。

Noboru Kobayashi

小林 登(こばやし・のぼる)  
CRN所長。東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長。日本子ども学会代表。一九二七年東京都生まれ。一九五四年東京大学医学部卒業。医学博士。著書には小児科学の専門書のほかに、「ヒューマン・サイエンス」(中山書店)、「子どもは未来である」(メディサイエンス社)、「育て育てるふれあいの子育て」(風潮社)、「風韻怎思(ふういんしんし)」(小学館)など多数。







Economics and Children:

The perspective of social common capital  
for a nation that values children

Today, problems pertaining to children present a challenge common to all advanced industrial nations. We are confronted with the task of examining whether or not our society itself might not be preventing our children from having a rich childhood full of hopes and dreams. We sought the advice of the renowned economist Hirofumi Uzawa. Alarmed at the global dominance of market principles, Dr. Uzawa has proposed a new concept of the economy based on social common capital.

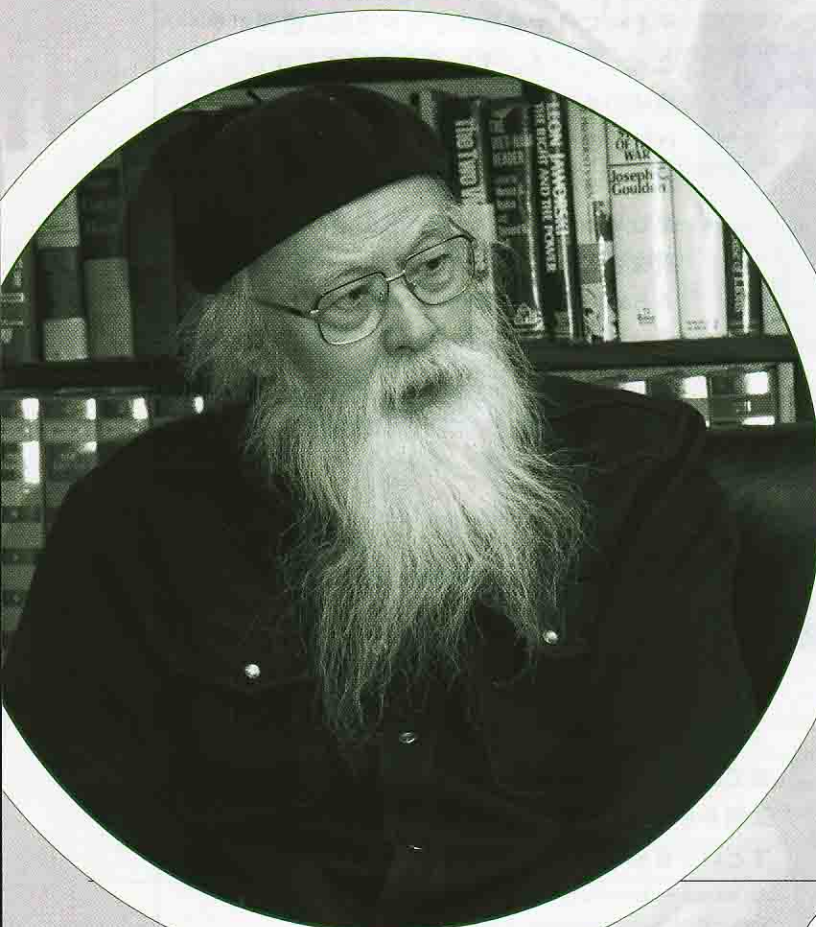
Using public funds effectively without leaving it up to bureaucrats

**Kobayashi:** Today, I'd like to hear your firsthand comments on the issue of children from an economist's point of view. For many years I have been under the impression that in Japan the state budget allocated for children is too small, disproportionately scanty in comparison with the budget for the aged.\*1 That's very disturbing.

**UZAWA:** Japan's postwar society succeeded in achieving remarkably high economic performance, but the importance given to human values has consistently declined. One result is today's relatively low state budget for children. I have lived in many different countries, so I can tell you that Japan, compared with other countries, has become a leading nation in neglecting children. Sad, isn't it?

\*1

For instance, according to the report released by National Institute of Population and Social Security Research last year, the percentage share of the social security expenditure for elderly (i.e. retirement pensions, medical care, welfare services) in FY2003 was over 70% while the share of expenditure for children and their family (i.e. child allowance and childbirth allowance) was only 3.8%.



**宇沢** 小林さんとは一高時代からの仲ですから、堅苦しくやる必要はないですよ。ワインでも飲みながら気楽にやりませんか。

**小林** いいですよ(笑)。今回はあなたのご自宅にお邪魔したわけだし、あなたのペースで進めてくださいよ。

**宇沢** ホッとしました。じゃあ、そうしましょう。小林さん

とは昔から馬が合うので安心なのですが、型にはまった雰囲気はどうも苦手でね。それで、今日は何について話せばいいのですか。

**小林** 今日はあなたのご専門の経済学という視点から子どもを見ると、どんなことが言えるのかをお聞きしたくてやってきました。私はかねがね思っているのですが、日本は子どものため

に国家が負担する予算があまりにも少ない。老人に使うよりもはるかに少ない\*1。そのことが大変気になっているのです。

**宇沢** 戦後の日本社会は経済的なパフォーマンズは大変高くなったけれど、人を大切にしようとする姿勢がどんどん弱まってきたと思います。そのことが子どもに使う予算の少なさにも表れているのではないですか。

Hirofumi Uzawa

宇沢弘文(うざわ ひろふみ)  
同志社大学社会的共通資本研究センター長。日本学士院会員。東京大学名誉教授。一九二八年鳥取県生まれ。一九五二年東京大学理学部数学科卒業。専門は経済学。一九五六年から十四年間スタンフォード大学やシカゴ大学などアメリカの大学で教鞭をとる。一九九七年文化勲章を受賞。「社会的共通資本」という考えから、環境問題、子どもの問題などについてさまざまな提言を行う。著書に「ゆたかな国をつくる」(岩波書店)、「経済学と人間の心」(東洋経済新報社)、「社会的共通資本」(日本の教育を考える)(ともに岩波新書)など多数。

\*1 たとえば、2005年に国立社会保障・人口問題研究所が発表した、2003年度に支払われた日本の社会保障給付費の使途によると、年金や医療、介護などの高齢者への給付費が全体の7割を超えている一方、児童手当や出産関係費などの子どもや家庭関係の給付費は全体の3.8%にとどまっている。



私はいろいろな国で暮らしてきましたが、諸外国と比較しても日本は子どもを大変粗末にする国になってしまいました。悲しいことですね。

**小林** 子どもたちの環境を良くしようと思ったら、お金を出すのは当然のことでしょう。

**宇沢** 確かにそうですし、問題は予算の多い少ないだけではなくて、どのような考え方のもとにお金を使うのかという、質の問題も大きいと思います。

**小林** 予算が少ないだけではなく、使い方もよくない。

**宇沢** 日本は政府の自由になるお金が大きすぎて、志の低い官僚たちが好き勝手に箱物づくりなどをしてしまいます。ちっとも有効な使われ方がなされていない。官僚任せにしないで、子どもの幸せを守ろうとする人々の考え方がきちんと反映される仕組みがないとダメだと思います。

例えば、アメリカなどでは、大学の基金の半分は民間の遺贈によるものです。欧米では相続財産を遺贈すると非課税になり、寄附をした人の気持ちを大切にしたい資金運営が行われています。また、最近EUではハンガリーで始まった1%ルールというものが広まって、自分が共感できる大学や病院などに申告

所得税の1%を寄附できる仕組みが出来上がっています。気持ちのこもったお金を志の高い目的に使うことができるのです。

日本でも明治の初め頃には、小学校をつくるために村の人が森林を学校林として提供して、その林の木材で校舎を造ったり、必要な資金を得るために使いました。それで小学校でも立派な校舎をもった学校があったのです。

**小林** 長野県などには、明治の頃のりっぱな小学校の校舎が残っていますね。

**宇沢** そうです。あの頃の方が、よっぽど子どもたちのために公の資金が有効に使われていました。税金だけが公の資金ではないのですから、日本人は官僚がすべてを決めていくことにもっと危機感を持つべきですね。

### 「社会的共通資本」は世代を超えた財産

**小林** 宇沢さんは「社会的共通資本」という考え方のもとに経済を考えておられて、そこで教育や医療について触れられていますね。これはどういう概念ですか。

**宇沢** 一言で言えば、「誰にとっても等しく大事なものを」「社

## 宇沢弘文さんの数学入門書

子どもには生まれつき数や空間の直観がそなわっている。その力を大切にしながら、興味のもてる問題をひとつひとつ解いていけば、数学の力は自然に身につくというのが宇沢さんの数学観。難解な問題ではなく、楽しめる例題が子どもたちの数や空間への興味を広げてくれます。

### A Basic Introduction to Mathematics

All children are born with the innate ability to grasp numbers and spatial concepts. These books are designed to stimulate this ability so that children progressively develop math skills as they work through each series of problems.

## 『好きになる数学入門』（全6巻／岩波書店）

中学1年生から高校3年生までを念頭に入れた上級編。解析幾何、線形代数、微分法などのタイトルが各巻に並びますが、数学を体系的に解説するのではなく、さまざまな例題を解きながら自然に身につけていきます。最終巻の最後の章では、太陽と惑星の運動に関するケプラーの法則からニュートンの万有引力の法則を導き出すという有名な命題を証明します。

An Advanced Introduction to Mathematics for Junior and Senior High School Students. 6 vols.

## 『算数から数学へ』（岩波書店）

数学の学習の入り口に立つ、小学校高学年から中学校低学年に向けての入門書。方程式と幾何の考え方の基本を、算数から発展させながら、楽しく学びます。

An Introduction to Mathematics for Grades 5 to 7







## Economics and Children:

The perspective of social common capital for a nation that values children

**Kobayashi:** If the state wants to improve the environment of children, it should first make financial outlays for it, right?

**UZAWA:** I agree, but the crux of the problem is not the amount of the outlay, but the purpose of the allocation and the idea behind how it should be spent. Quality, not the quantity, is the question.

**KOBAYASHI:** In reality, not only is the budget low, but the way it is spent is also questionable.

**UZAWA:** In Japan, the amount of money at the government's disposal is so great that bureaucrats of lesser virtue can easily waste it on superfluous and grandiose construction projects. Our money is not spent efficiently at all. We have to stop letting bureaucrats do whatever they like, and instead work out an effective system that caters to people's demand to safeguard the well-being of children.

In the United States, just to give you an example, about one half of university endowment funds come from private bequests. In Europe and North America, bequests are exempt from estate taxes and managed in accordance with the wishes of the individual donors. Similarly, the so-called 1% Law, which originated in Hungary, has spread throughout the European Union. It allows taxpayers to make a donation of up to one percent of their income tax to an eligible NGO or a listed public cultural institution of choice. In this way, people can put their money to use in ways that are meaningful to them and beneficial to society.

In Japan, too, at the beginning of the Meiji Era, villagers used to donate their common woodland to build elementary schools. Lumber from these woodlands was used to construct school buildings or raise the funds needed. That's why elementary schools then were sometimes housed in impressive buildings.

## Social common capital as shared assets over generations

**KOBAYASHI:** Dr. Uzawa, your economic approach focuses on the notion of social common capital, and you refer to education and medical care in that context. Could you explain it more?

**UZAWA:** Briefly, it refers to "something equally precious to everybody" that should be carefully protected as "common property of society." Today, even students of economics tend to regard it as a discipline that merely deals with the pursuit of market profitability. They forget about such concepts as the fair distribution of wealth or eradicating poverty, although they have always been a part of classical economics.

We can think of social common capital in terms of three main categories: the natural environment, social infrastructure, and institutional capital. Both education and medical care belong to the category of institutional capital and are deemed necessary for the all citizens to maintain human dignity and exercise civil liberties to the maximum degree. Above all, it is important to keep in mind that social common capital belongs not only to our generation, but also to following generations.

**KOBAYASHI:** Three years ago, we established an academic society called the Japanese Society for Child Science. It is an interdisciplinary association of people who want to improve the environment for child development. Members of this association are dealing with "Child Caring Design," a key concept that includes all issues relevant to children, such as city planning and design, as well as social institutions and industrial planning.

会にとつての共通の財産」として大切にしようということですが。いまは経済学を志す学生でも、経済学というと市場での営利追求のことだけを論じるものと考えていて、分配の公正や貧困の解消などを忘れていますが、もともと経済学の考え方に中にも古くからある概念のひとつです。

具体的には、「自然環境」「社

会的インフラストラクチャー」「制度資本」の三つの大きな範疇に分けられます。教育や医療は、制度資本のひとつであり、どちらも一人ひとりの市民が人間の尊厳を保ち、市民的自由を最大限に享受するために必要不可欠なものと考えています。とくに重要なのは、「社会的共通資本」は自分たちの世代だけではなく、次の世代にも残さな

ければならないものだということです。  
**小林** 実は、私は三年前に「日本子ども学会」という新しい学会を立ち上げました。子どもの成育環境の向上を願う人々が集まって、学際的に話し合おうという学会です。その中に、「チャイルド・ケアリング・デザイン」という、子どものための都市計画や環境づくり、社会制度

や産業のあり方について論じるためのコンセプトを設けています。  
日本は子どもを大切にしているというのには、宇沢さんのおっしゃる通りで、それを学問的な立場から解決していくにはどうしたらいいかを、私も模索している最中です。子どもが伸び伸びできる環境を、社会の構築の仕方から考えていきたいと



思っているのです。

**宇沢** すばらしいですね。小林さんはかつて東大時代に優れたクリニックをおつくりになった。喘息の子どもたちのために、周りの環境も考慮に入れた、対症療法的でないクリニックです。あれには感動しました。そういう良心的な活動をする人々の思いをきちんと反映させるための社会的装置が「社会的共通資本」なのです。

**小林** 宇沢さんに誉めていただくのは大変光栄ですね。ところで、この「社会的共通資本」を管理するのは誰のですか。公的機関ですか。

**宇沢** それが大変重要な点です。「社会的共通資本」は社会全体の共通の財産であり、人間が人間らしく生きていくために必要不可欠なものですから、利潤追求の対象として市場的な条件に左右されたり、国家の統治機構の一部として官僚的に管理されてはなりません。

例えば、難病の子どもたちへの医療をコストの観点だけから考えることなどできませんし、人間的な対応が不可欠のケアを、政府によって規定された基準やルールによってマニュアル化することもできません。医師が必要と感じた医療は、コストや管理制度にとらわれることなく、適切に実施しなくてはならないはずです。

これは教育もまったく同じで、子どもへの投資がどのように経済的に社会還元されるかという観点から教育を考えてはいけないし、多様な子どもたちの個性を官僚的な画一化したカリキュラムによって管理してはならないと思います。教師がその子どもの資質を伸ばすために必要だと思うことは、すべてやればいいのです。

つまり、「社会的共通資本」は、それぞれの分野の専門家たちの知見や職業的規律に基づいて、国家からも市場からも独立した形で、市民の基本的な権利の充足という見地だけから運営管理されるべきなのだと思います。

### 安倍能成先生の演説に 深い感銘を受けた

**小林** 宇沢さんの言われるように、専門家の知見や職業的規律が大切だとすると、その専門家を育てる高等教育機関の役割が、大変重要になってきますね。

**宇沢** おっしゃる通りです。小林さんと一緒にいると、どうしても昔話をしたくなるので

安倍能成校長  
Mr. Nosei Abe  
昭和15～21年在籍



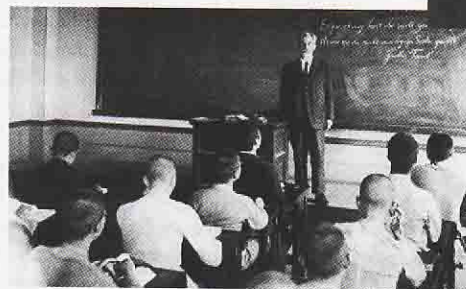
すけど、戦後マッカーサーが厚木に降り立つてすぐの頃に、一高にジープで占領軍が来たことがあったんです。小林さんは、まだ一高にはおられなかったですね。

**小林** 私は翌年ですね。

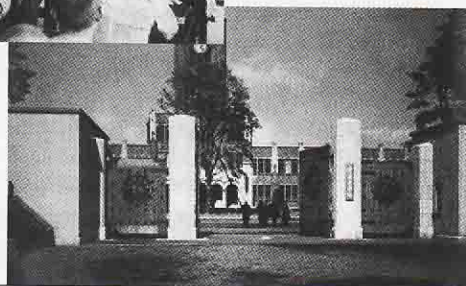
**宇沢** では、見ておられませんか。一高を占領軍の施設として接収するために来たのです。

その時に校長だった安倍能成先生が、その占領軍に対して、「この一高はリベラルアーツの学校である。リベラルアーツとは人類が残してきた芸術、文化、学問のことであり、ここはその偉大な遺産を次の世代に伝える sacred place (聖なる場所)だ。そこを占領などという vulgar (世俗的) な目的のために使わせるわけにはいかない」と言って、追い返したのです。私は深い感銘を受けましたね。

教室風景



駒場、時計台



第一高等学校ホームページより  
<http://www6.ocn.ne.jp/~kohryoh/>





## 子どもを粗末にしない国にしよう

～社会的共通資本の視点～

## Economics and Children:

The perspective of social common capital  
for a nation that values children

You are quite right, Dr. Uzawa, in pointing out that Japan cares very little for children. That's why I am currently searching for ways to tackle this problem from a scientist's point of view. I want to trace back the problem to the very root, namely to discuss how we can create a society that assures an optimal environment for child development. By the way, let me ask, who is supposed to manage this social common capital? A public institution?

**UZAWA:** That's an important point. Social common capital consists of the common property and assets of an entire society that are necessary for people to live like human beings. As such, it should not be subject to the vagaries of the market in the pursuit of profit nor should it be administered perfunctorily as part of the mechanism of state administration.

For instance, you cannot regard the medical care needed for children suffering from incurable diseases as merely a cost factor. Nor can you make a manual that standardizes the type of care that requires intricate human interaction in terms of rules laid down by the government. Whatever medical care the doctor considers to be necessary ought to be adequately provided, regardless of the cost and the administrative measures involved.

The same applies to education: In my opinion, society cannot consider education simply in terms of the return on its investment in children. Nor should the wide diversity of individuality of children be controlled through a uniform and bureaucratic curriculum. The teacher ought to do whatever he or she deems necessary to enhance the child's capabilities.

In other words, social common capital must be managed and administered on the basis of knowledge and professional discipline of experts in relevant fields, independently of state and market control, that is to say, purely from the standpoint of providing fundamental civil rights.

## Deeply moved by Nosei Abe's words

**KOBAYASHI:** Given that expert knowledge and professional discipline, as you say, are indispensable, then institutions for higher education come to bear a very important role in fostering such experts.

**UZAWA:** I recall a scene just after the end of the World War II when the officers of the Occupation Army came to the First Imperial High School in Tokyo to requisition the school facilities for their headquarters. Mr. Nosei Abe, then the school principal, firmly refused, saying, "Our school has a mission to teach liberal arts. Liberal arts are the arts, culture and learning that are legacies of humankind. This is the sacred place where these great legacies are passed on to future generations. It cannot serve such a vulgar purpose as military occupation!" I was deeply moved by his words then.

**KOBAYASHI:** Mr. Abe was, indeed, a man of great dignity. Later, he was appointed Minister of Education in the administration of Prime Minister Kijuro Shidehara.

**UZAWA:** Mr. Abe was a remarkable person. I guess, he was then already thinking on behalf of the future generations. Higher education based on the liberal arts is crucial to educating experts qualified to manage and administer social common capital and Mr. Abe was willing to risk his life to protect it. In other words, professional knowledge and expertise must be solidly backed by sense of ethics and human character. Only experts of such caliber can be trusted to administer and manage social common capital, or the common property of our society.

生はアメリカの教育使節団が来たときに文部大臣として感動的な挨拶をされました。「日本は過去における占領政策においてきわめて多くの失敗をした。その国の伝統と実情を無視し、自分勝手な政策を力によって強いたからだ。米国は日本が犯したのと同じ間違いを繰り返さないでほしい」と言われたのです。会場は割れんばかりの拍手で、

使節団の団長は壇上に飛び上がって、安倍先生に握手を求めてきたそうです。そのアメリカの使節団は、アメリカでジョン・デューイの弟子さんだった方々なのです。つまり、当時のもっともリベラルな教育を受けていたのです。だからこそ、安倍先生の信念に共感したのだと思います。安倍先生は、子どもの世代の

ことをすでに考えられていたのだと思います。教育者として次の世代のために何を残せるのか。安倍先生はご自分のお子さんを栄養失調で亡くされていて、それだけに先生の言葉には重いものがありました。私は「社会的共通資本」を管理運営していくには、専門家の知見や職業的規律が大切だと言いましたが、そのような専門家

を育てるためには、安倍先生が命がけで守ろうとしたリベラルアーツに基づく高等教育が大変重要だと思っています。すなわち、専門的な知識や技術が、高い倫理観や優れた人間的資質に裏打ちされるということです。そのような専門家でない、社会の共有財産である「社会的共通資本」の管理運営を任せることはできません。



## 個人的に接した人から 人の大切さを学ぶ

**小林** 宇沢さんの「社会的共通資本」という考え方は、新しいものだと思っていましたが、むしろ私たちの世代にとっては懐かしいものかもしれませんね。

**宇沢** 当たり前のことなのですね。人を粗末に扱わないということですから。貧困を解消したい。子どもの資質を伸ばしたい。人々の病気を治したい。子どもが伸び伸びと遊べる町をつくりたい。自然を大切にしたい

——社会的共通資本の考え方は、より人間的な、より住みやすい社会をつくるためにはどうしたらよいか、という問題を経済学の原点に立ち返って考えようという意図のもとにつくり出されたものです。ですから、官僚制度や市場原理のような非人間的なもので、それを実現しようとするのはもともと無理なのです。私はそれを経済学的に証明したいと思っています。

**小林** 宇沢さんは『経済学と人間の心』というタイトルの本を書かれています。人間の心を大切にしたい経済学も可能だということですね。

**宇沢** フリードマンの考え方に代表される経済学は、小林さんの医学とは違って、蛇蝎のごと

く嫌われるものでね。そんな経済学に反発して書いたのがあの本ですよ。

もともとの経済学では、アダムスミスのように人間の心を問題にする人もいましたが、新古典派理論による近代経済学では、人間の心は経済とは何の関係もないということ、問題にされません。マルクス経済学にも人間がいなくて、階級しかありません。

**小林** 宇沢さんはもともと医学部志望だったそうですが、本来はあなたが医者になるべきだったのかもしれない。しかし、あなたはいま社会のお医者さんとして治療をなさっているのだと思いますね。ところで、子どものことを取り上げる経済学というのは、歴史的にはないのですか。

**宇沢** ケインズの弟子でジョン・ロビンソンという学者がいるのですが、彼女は経済学の論文を書くときには子どものことを考えながら書けと強調されていました。でも学問の理論的な枠組みには入ってこないですね。

**小林** 入ってもいいような気がするけれど、ダメですか。

**宇沢** 近代経済学では、価格のつかないものは扱えないのですよ。自然環境にしても子どもに

しても同じです。値段がつかないし、市場でやり取りできないものでしょう。だからいつの間にか粗末に扱われてしまうのです。社会の共有財産は、自由財として好き勝手に利用するものではなくて、皆がもつとも大切に守らないといけないものなのですけどね。

**小林** 人を大切にするために、これからの世代の人たちが学ばなくてはならないことは何だと思われませんか。

**宇沢** 難しいことではないですね。個人的に接した人から、人を大切にすることの価値や喜び

を学んでいくことです。自分

のおばあさんでも、近所の人でも、友達でも、誰でもいいから大切にしていけることです。私は教師や医者には聖なる職業だと思っています。そういう職業を目指す人は、そのことを心してほしいですね。

**小林** 今日は良いお話をありがとうございました。ワインもチーズもとてもおいしかったです。

**宇沢** こちらこそ、ありがとうございました。

(二〇〇五年十一月二十二日  
宇沢邸にて)







巻頭対談  
経済学と子ども  
子どもを粗末にしない国にしよう  
～社会的共通資本の視点～

**Economics and Children:**

The perspective of social common capital  
for a nation that values children

**Value of relationships through personal encounters**

**KOBAYASHI:** I thought that your idea of social common capital might be something radical, but now it seems to be something rather nostalgic for our generation.

**UZAWA:** It's a matter of common sense, you know, in that it asserts that human beings should be valued and respected. We want to solve the problem of poverty, develop children's abilities, cure illness, create safe and stimulating communities for children, and protect the natural environment. What should we do to make society more livable and comfortable in human terms? The concept of social common capital asks this question and makes it a central one in economics. That's why the social common capital cannot be realized through bureaucracy, market principles, or other impersonal means. I am anxious to prove this proposition from the perspective of economics.

**KOBAYASHI:** Do you mean that an economic approach that takes the human mind into account is feasible?

**UZAWA:** There were actually some economists including Adam Smith who took the human mind into consideration. Modern economists, however, under the influence of neoclassical economic theory regard the human mind as irrelevant to the economy, and pay no attention to it. Marxist economists are not occupied with humans either, but only with social class. Among Keynes' followers, I recall that Joan Robinson emphasized the importance of considering children when writing about economics, but this does not necessarily mean that children were a factor in the theoretical framework of economics.

**KOBAYASHI:** Why not? It should be possible.

**UZAWA:** Unfortunately, modern economics cannot deal with factors that cannot be given a monetary value, and this applies to the natural environment and children. These cannot be priced and exchanged on the market. Maybe that's why they tend to be neglected. Common assets of society, to be sure, are not free goods that can be exploited wantonly, but something that we must protect dearly.

**KOBAYASHI:** In your opinion, what lesson should younger generations learn that will contribute to greater valuation and respect for human beings?

**UZAWA:** Nothing complicated. It is through personal contact with others that we come to learn the value and the joy of taking care of human beings. Try to care for people around you: your grandmother, your neighbors or your friends. In that sense, teaching and medicine are sacred vocations. I only wish that those who aspire to those professions will keep that in mind. (November 22, 2005)

**Hirofumi Uzawa, D.Sc.**

Born in Yonago, Tottori in 1928.

Professor Emeritus, The University of Tokyo

Member, The Japan Academy

Graduated from the Department of Mathematics at the University of Tokyo in 1951.

He has taught at several universities including Stanford and the University of Chicago. He also serves as Chair Professor of Advanced Study, United Nations University/IAS. The Order of Cultural Merit was conferred upon him in 1997.

**Noboru Kobayashi, M.D.**

Born in Tokyo in 1927.

Doctor of Medicine, Faculty of Medicine, The University of Tokyo

Director, Child Research Net (CRN)

Professor Emeritus, The University of Tokyo

President Emeritus, National Children's Hospital

Director, Children's Rainbow Center (Japan Information and Training Center for Problems related to Child Abuse and Adolescent's Turmoil)

